

令和元年度 現地検討会等実施状況 (自然再生)

2	国有林	12
	自治体	1
	森林所有者	0
	事業体	2
	研究機関	5
	その他	6
	合計	26

検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真
野幌自然環境モニタリング 検討会	10月15日	石狩地域森林ふれあい推進センター	江別市(国有林)	国有林 6 名	台風被害をうけた野幌森林公園に おいて、市民と協働の森林づくり等 に取り組む「野幌森林再生プロジェ クト」を推進するため、被害後の森 林の再生状況等を把握するためのモ ニタリング調査に係る検討を行うこ と。	台風被害後の森林の再生状況を把握することを目的 に、倒木等による環境の変化に影響されやすい「森林植 生」・「歩行性甲虫」・「菌類」の3つの視点で調査を 行い、また、植栽木や天然更新木への影響度合を把握す るため、「野生動物」の調査も行っている。 今回は再び台風被害があったことから、「新たな視点 での調査も重要」との意見もあった。 今後、森林の再生段階、その他森林の有する生態系の 健全性、懸案事項等についてとりまとめを行うこととし ている。また、調査結果については、幅広く一般市民等 に情報発信する。	
				自治体 名			
				森林所有者 名			
				事業体 名			
				研究機関 5 名			
				その他 3 名			
				合計 14 名			
現地にて意見交換							
令和元年度第1回オホーツ クの森自然再生モデル事業 企画運営協議会	10月30日	常呂川森林ふれあい推進センター	北見市（国有林「オホーツクの 森」）	国有林 6 名	「オホーツクの森自然再生モデル 事業」の全体構想に基づき、地域住 民、NPO、ボランティア団体、行 政等の協働で、多様性のある森林へ の再生及び森林環境教育等を推進す るため企画・調整等を実施していく こと。	平成30年度協議会の概要の確認とその中での議論のま とめと検討状況の報告及び令和元年度のモデル林での主 な活動状況について報告。現地検討では「自然再生モデ ル事業」の樹種転換エリアの植栽地についての保育の状 況や植栽から約10年が経過し枯死した植栽木があること からその箇所に補植した旨の説明を行った。次に、当セ ンターでオホーツクの森に「樹木博士」のコースを設定 し、活用を開始したことから今年度の活用実績や今後の 予定について報告し活用の仕方や方法について助言等を いただいた。	
				自治体 1 名			
				森林所有者 名			
				事業体 2 名			
				研究機関 名			
				その他 3 名			
				合計 12 名			
自然再生モデル林樹種転換 エリアでの現地説明							